

# クレディ・スイス：世界の資産総額は、米国と中国を中心に 2.6% 増加

クレディ・スイス・リサーチ・インスティテュートが「2019年グローバル・ウェルス・レポート」第10版を発行

東京、2019年10月25日 – クレディ・スイス・リサーチ・インスティテュート (CSRI) の「2019年グローバル・ウェルス・レポート」によると、2019年央までの12ヵ月間で世界の資産総額は2.6%増加し、360兆米ドルに達しました。成人1人当たりの資産額は前回調査から1.2%増加し、世界の平均資産額は70,850米ドルと過去最高を記録しました。最も増加したのは米国の3.8兆米ドルで、中国の1.9兆米ドル、欧州の1.1兆米ドルが続きました。

## 日本の主なハイライト

- 日本の資産額は同期間で4%増加し25兆米ドルとなり、米国と中国に次いで世界第3位でした。
- 日本の成人1人当たりの平均資産額は4.0%増加し、238,104米ドルに達しました。2000年の191,990米ドルと比べると、24%増にとどまりました。伸び悩みの理由として、株式市場と不動産の不安定な動き、低金利、さらに貯蓄率の低下が挙げられます。
- 日本のミリオネア層は過去12ヵ月間で約7%増加して300万人に達し、世界のミリオネア層の約6.6%を占め、世界第3位でした。
- 日本の超富裕層の数は3,350人となり、世界第8位でした。
- 日本では、金融資産の価値や住宅価格の上昇は安定的ではありません。そのため、家計のポートフォリオにおける金融資産の相対的な重要性はほとんど変化せず、総資産の61%と比較的高い水準を保っています。負債は減少し、総資産に対する割合は11%と国際基準に比べ低めです。
- 日本ではジニ係数63%から分かる通り、他の主要国よりも富が平等に分配されているといえます。平均資産が依然として高いこととともに相対的に平等なことから、資産が1万米ドル未満の成人は全体の4.6%にとどまっています。資産が10万米ドル以上の人口の割合は世界平均の5倍に上ります。人口規模と富を反映し、日本は世界で最も富裕な上位1%のうちの7%を占めています。

## アジア太平洋地域は、世界の資産に最も貢献

2019年年央のアジア太平洋地域（中国とインドを含む）における家計総資産は141兆2,190億米ドルと、世界の総資産の360兆6,030億米ドルの中で、アジア太平洋地域が最も貢献しています。家計の資産総額の伸びを前年比で見ると、中国が3.1%、インドが5.2%増加しました。他の地域でも資産は増えており、北米では4.1兆米ドル増加し、そのうち米国が3.9兆米ドルを占めました。

世界の総資産の増加分のうち、金融資産は39%を占めました。一方、非金融資産の増加率は金融資産よりも高く、中国、欧州およびラテンアメリカの増加分の大半を占め、アフリカとインドでは資産

の増加分の大半を占めました。

**表 1 : 2018 年年央から 2019 年年央にかけての家計資産の地域別推移**

	総資産		総資産の伸び	
	2019 年央 (10 億米ドル)	2018 年央以降の 変化 (10 億米ドル)	2018 年央以降の 変化(%)	
アフリカ	4,119	130	+3.3	
アジア太平洋地域 (中国、インドを含む)	141,219	3,339	+2.4	
欧州	90,752	1,093	+1.2	
中南米	9,906	463	+4.9	
北米	114,607	4,061	+3.7	
全世界	360,603	9,087	+2.6	

Note: In current US dollar terms

Source: James Davies, Rodrigo Lluberas and Anthony Shorrocks, Credit Suisse Global Wealth Databook 2019

### スイスと香港特別行政区（中国）の平均資産が世界最高

成人 1 人当たり資産ではスイスが引き続き世界のトップに位置し、2019 年央には 564,650 米ドルとなり、次いで香港特別行政区（中国、489,260 米ドル）が第 2 位となりました。世界の主要国の中では、オーストラリア（386,060 米ドル）が世界第 4 位、シンガポール（297,870 米ドル）が世界第 6 位となりました。平均資産では、富の不平等の水準が最も低い国・地域が成人 1 人当たり資産で引き続き上位に位置し、スイス（227,890 米ドル）が首位に立ち、オーストラリア（181,360 米ドル）が香港特別行政区（中国、146,890 米ドル）を抜いて世界第 2 位となりました。トップ 10 入りしたアジア太平洋地域のその他の国では、ニュージーランド（116,440 米ドルで世界第 5 位）と、日本（110,410 米ドルで世界第 6 位）でした。

**表 2 : 2019 年年央の成人 1 人当たり平均資産の上位 10 カ国・地域**

順位	国・地域	成人 1 人当たり 資産(米ドル)	2018 年央からの 伸び (%)
1	スイス	564,650	3.3
2	香港特別行政区(中国)	489,260	-0.6
3	米国	432,370	2.8
4	オーストラリア	386,060	-6.9
5	ニュージーランド	304,130	3.0
6	シンガポール	297,870	2.4
7	カナダ	294,260	1.5
8	デンマーク	284,000	-1.1
9	英国	280,000	-0.9
10	オランダ	279,000	3.4

Source: James Davies, Rodrigo Lluberas and Anthony Shorrocks, Credit Suisse Global Wealth Databook 2019

**クレディ・スイス アジア太平洋地域最高投資責任者 (CIO) のジョン・ウッズ**は、次のように述べています。「総資産は全ての国・地域において過去 12 ヶ月間で増加しました。2019 年央までの 12 ヶ月間で、中国とインドを含むアジア太平洋地域の家計資産は 2.4%と着実に増加して 141 兆 2,190 億米ドルと地域では最大となり、世界の総資産の約 40%を占めています。」

「米国が引き続き世界最大で中国が世界第 2 位となっていますが、ミリオネア層の数は米国で 23%増、中国では 55%増の 690 万人と見込まれるため、相対的な位置関係は接近しているものとみられます。インドのミリオネア層は 2024 年に 120 万人に達し、今後 5 年間で 56%増加する可能性があります。アジア太平洋地域の超富裕層は 2024 年までに 21,300 人増加して 66,000 人になり、中国がそのうちの 42%を占めるものと見込まれます。」

### グローバル・ウェルス・レポートの 10 年間

今年のグローバル・ウェルス・レポートは、名目ではなくインフレ率を考慮した実質での国別パフォーマンスも評価しました。

- 中国を含む新興国<sup>1</sup>の世界経済における重要性が高まっており、2008 年以降の実質ベース資産増加分の 3 分の 2 を占め、北米の寄与度の 2 倍となりました。
- 中国は実質ベース（米ドル建て）、名目ベース（米ドル建て）および現地通貨建てにおいて、非常に好調に推移しました。
- 欧州の平均実質資産（米ドル建て）はユーロ安が一因となり、2008 年比で減少しています。
- この欧州の減少においては、その他世界（アフリカおよびラテンアメリカを含む）がこれを相殺し、アジア太平洋地域の高所得国による影響はほとんどありません。

本レポートは、国内総生産（GDP）に対する資産の比率も調査しており、長期的にみて最も成功している国は、制度と金融セクターの不備に対処して対 GDP 比での資産を増やすことに成功していることが分かりました。これは資産の増加が GDP 成長率を刺激し、高い GDP 成長率がひいては資産を増加させるという好循環を示唆しています。中国、インドおよびベトナムが、この好循環の好例となっています。

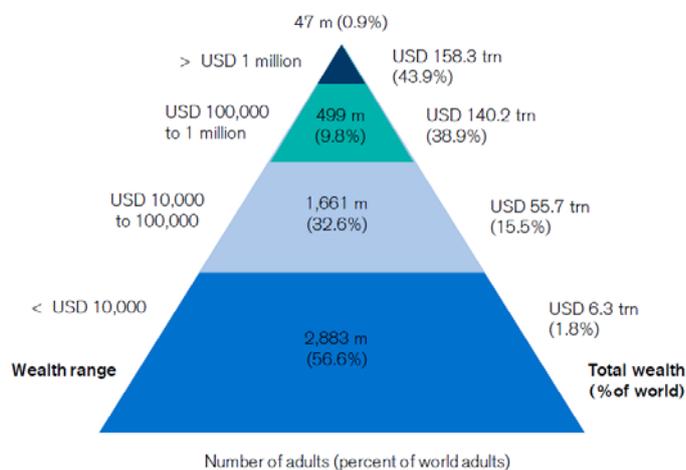
### 2019 年世界の資産ピラミッド

世界の資産が成人 1 人当たりどのよう分配到されているかを判断するために、グローバル・ウェルス・レポートは各国の家計資産水準の推定値を、各国内の資産配分のパターンと組み合わせました。本レポート図 5 の資産ピラミッド（下記）は、成人の資産格差を示しています。低資産保有者による大きな基礎が、徐々に人数が減少する上位層を支えています。2019 年には、推定で 29 億人の成人（世界の成人の 57%）の資産が 10,000 米ドルを下回っています。資産が 10,000~100,000 米ドルの次の層は 2000 年以降で人数が最も増加した層で、2000 年の 5 億 1,400 万人から 2019 年年央には 17 億人へと 3 倍に増加しました。これは新興国、特に中国の躍進と、開発途上国における中流階級の拡大を反映しています。このグループの平均資産は 33,530 米ドルで、世界の平均資産の半分弱ですが、大半の人々が属する諸国の平均を大幅に上回っています。

---

<sup>1</sup>新興国は、中国に加えて、アルゼンチン、ブラジル、チリ、コロンビア、チェコ共和国、エジプト、ギリシャ、ハンガリー、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、メキシコ、パキスタン、ペルー、フィリピン、ポーランド、カタール、ロシア、サウジアラビア、南アフリカ、台湾、タイ、トルコおよびアラブ首長国連邦を指します。ダブルカウントを避けるために、リストに含まれる企業は「欧州」および「高所得アジア太平洋」のカテゴリーから除外されています。

図 5: 2019 年世界の資産ピラミッド



Source: James Davies, Rodrigo Lluberá and Anthony Shorrocks,  
Credit Suisse Global Wealth Databook 2019

### 女性の資産は労働力率の上昇によって増加

女性の資産は、女性の労働力率の上昇、配偶者との間の資産のより平等な分配およびその他の要因によって、多くの国で増加しました。

伝統的に、男性よりも女性にとって相続が重要な資産源となってきました。これは自身の所得が低く資産蓄積が制限されること、一方、寡婦となった後は女性の方がより長生きする傾向にあるため長く遺産分配を受けられること、などが要因です。20世紀前半には相続資産が減少したことが、遺産に大きく依存する女性の資産減少の一因となりました。

### 親からの資金援助と相続がミレニアル世代の資産蓄積の一助に

グローバル・ウェルス・レポートによると、ミレニアル世代は幸運なグループとは言えません。若い時に世界の金融危機、これに続いた景気後退や雇用の低迷によって打撃を被ったのみならず、多くの諸国において高い住宅価格、低金利および低所得によって不動産取得または資産蓄積が困難になるという不利な立場にあったためです。しかし、多くの不利益を被っているように見えるミレニアル世代ですが、資金援助と相続が彼らを救う可能性があります。急増が見込まれる相続は、先進国と新興国ともに、資産分配と富の不平等につながるものとみられます。相続は将来的に資産分配に一層大きな役割を果たし、その他の資金源に加え、不平等圧力を高めるものとみられます。

### 世界の成人の1%近くがミリオネア層

2019年央で、世界の成人の0.92%に当たる4,680万人のミリオネア層が、合計158.3兆米ドル（世界の資産総額の44%）を保有しています。2019年6月までの12ヵ月間で、新たに誕生した110万人のミリオネア層の半分以上を米国が占めた他、日本では187,000人、中国では158,000人の新たなミリオネアが誕生しました。ミリオネア層が成人の0.37%だった2000年以降では、中国およびその

他新興国でミリオネア層が最も急速に成長しました。増加に最も大きな要因は平均資産の増加（78%）で、人口増加（16%）、資産の不平等拡大（6%）が続きました。

### 今後の見通し

アジア太平洋地域の資産は、2024年までに33%増加して188兆米ドルに達するとみられ、世界の資産総額は458兆5,770億米ドルと予想されます。

アジア太平洋地域のミリオネア層は2019年年央の1,270万人から2024年には1,910万人に達すると予想されます。2019年から2024年にかけてミリオネア層は、世界で34%、欧州で35%、北米で24%増加すると予想されます。

アジア太平洋地域の超富裕層は、2024年までに約21,300人（年率8%）増加して66,000人弱に達し、その42%が中国と予想されます。一方世界では、年率約6.5%、北米では同6.6%、欧州では同6%のペースで増加すると予想されます。

クレディ・スイス インターナショナル・ウェルス・マネジメント CIO 兼投資調査部のグローバル・ヘッドであるナネット・ヘシュラー・フェデルブは次のように述べています。「過去12ヵ月における米中貿易摩擦にもかかわらず、両国は順調に資産を創造し、米国は3.8兆米ドル、中国は1.9兆米ドル増加させました。ミリオネア層の数も世界で110万人増加し2019年年央には4,680万人にのぼり、合わせて158.3兆米ドル、世界の総資産の44%を保有しています。中国をはじめその他の新興国はこの増加に大きく寄与しており、そこに投資家の発展と機会も見出せるでしょう。」

—以上—

#### メディアからのお問い合わせ先：

クレディ・スイス 広報

能田映子 eiko.noda@credit-suisse.com, +81 3 4550 7054

クレアブ株式会社（クレディ・スイス広報代理）

惠木 マイケル倫太郎 credit-suisse-pr@kreab.com, +81 90 6486 7191

「2019年グローバル・ウェルス・レポート」は、下記のリンクよりご参照いただけます。

<https://www.credit-suisse.com/ch/en/about-us/research/research-institute.html>

#### クレディ・スイス・リサーチ・インスティテュートについて

クレディ・スイス・リサーチ・インスティテュート（CSRI）はクレディ・スイス社内のシンクタンクです。CSRIは、2008年の金融危機後に、金融サービス業界内および業界を超えて世界的に影響を与える（または与えると見込まれる）長期的な経済発展を研究する目的で設立されました。詳細情報につきましては[www.credit-suisse.com/researchinstitute](http://www.credit-suisse.com/researchinstitute) をご覧ください。

**クレディ・スイス AG**

クレディ・スイス AG は世界有数の金融機関であり、クレディ・スイス・グループ（以下「クレディ・スイス」）の子会社の1つです。クレディ・スイスの戦略は世界屈指のウェルス・マネージャー、専門的なインベストメント・バンキング能力、母国スイスでの強力な存在感という強みの上に成り立っています。ウェルス・マネジメントに対してバランスの取れたアプローチで臨み、成熟市場の多額の資産プールと、アジア太平洋地域とその他の新興国市場における資産の大幅な拡大を活用しつつ、スイスを中心に主要先進国にもサービスを提供しています。クレディ・スイスは、約46,360人の従業員を擁しています。親会社クレディ・スイス・グループ AG の株式（CSGN）はスイスおよび米国預託証券（CS）としてニューヨークで上場しています。詳細は[こちら](#)をご覧ください。

[www.credit-suisse.com](http://www.credit-suisse.com)

**アジア太平洋地域におけるクレディ・スイスの最新情報はこちらから：**

LinkedIn <https://www.linkedin.com/company/credit-suisse/>

Facebook <https://www.facebook.com/creditsuisse/>

Twitter @csapac

**免責事項**

本資料はクレディ・スイス・リサーチ・インスティテュートにより提供されるもので、ここで提示される意見は別途記載された場合を除き、全て資料作成時のものであり変更されることがあります。本資料は情報提供のために、また受領者が使用することのみを意図して作成されたものです。本資料はクレディ・スイスにより、またはクレディ・スイスに代わって証券の売買について募集したり勧誘するものではありません。過去の実績に関する言及は、必ずしも将来の指針になるとは限りません。本資料に掲載されている情報や分析は、信頼できると考えられる情報源から編集または結論付けられていますが、クレディ・スイスはその正確性または完全性を表明するものではなく、クレディ・スイスはそれらを使用した場合に生じる損失について一切責任を負うものではありません。